



# フェアトレードを普及する為に～熊本から全国に～



熊本学園大学附属高等学校2年 41班

## 研究の目的・背景・仮説(Introduction)

私たちの班の目的はフェアトレードについてより多くの人に知ってもらうことである。公平貿易証明がなされたフェアトレード商品の利用を促進していると見なされた都市「フェアトレードタウン」に、2011年、日本かつアジアで初めて熊本市は認定された。しかし、フェアトレードを推進する代表的な街であるにもかかわらず、あまり多くの人々がフェアトレードについて詳しく知らないことが調査の結果分かったため、実は身近にあるという事を知ってもらい、この活動の普及に繋がることを願い、この研究テーマにした。

## フェアトレード(Fair Trade)とは・・・

貧困のない公正な社会をつくるために、途上国の社会的経済的に弱い立場にある生産者と社会的経済的に、強い立場にある先進国の消費者が対等な立場で行う貿易である。

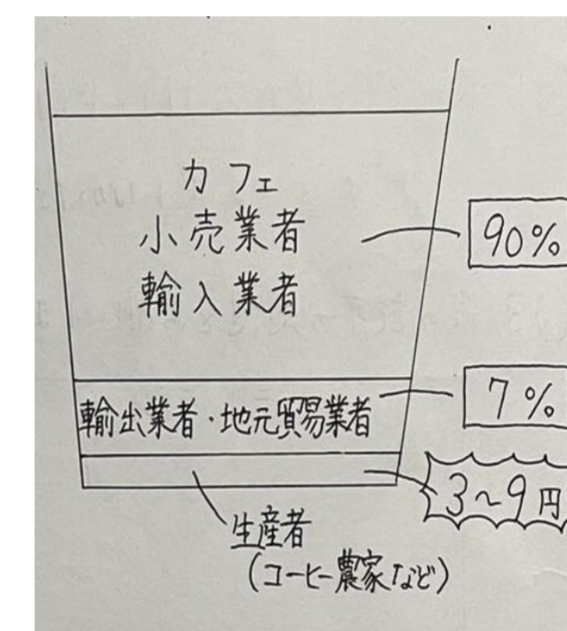


https://www.fairtrade-jp.org/about\_fairtrade/int\_license.php

## 実施したアンケート結果とセミナーでの学び



～熊本学園大学Fair Trade Cafe,国際交流会館から学ぶ～  
 ・一般のコーヒー一杯(¥296)だと  
 ↳フェアトレード輸入業者側の義務



(例)  
 ・プリペイ  
 生産者は商品を送ってすぐお金が入ってきて欲しい  
 50~60%前払い  
 ・プレミアム  
 市場価格に20%上乗せ(この20%が高い分)

・ドイツ(熊本市と友好都市であるハイデルベルク市)では・・・  
 (考え方)  
 「持続可能な生活が大事」・・・95%  
 「家族とのトーク内容がフェアトレード」・・・80%以上  
 (教育)  
 「持続可能」と「世界」をテーマに。  
 知識より解説力と表現⇒意見重視! ⇒デモに繋がる  
 言語を学ぶと同時に「持続可能」について学ぶ  
 ex)各教科の教科書に社会を学ばせる内容が書かれている  
 (市民の取り組み)  
 Fridays for future ドイツ全国の若者が多参加のデモ(50人→30万人)  
 イベントの開催 サッカー大会(ボールはフェアトレード製品)  
 散歩ツアー(歩きながら話す)  
 フェアウィーク 年1回全国でイベント  
 など

・日本では・・・あまり普及していないのが現実  
 フェアトレード商品どこにあるのか分からない人も多い  
 ↓↓↓しかし  
 コンビニやスーパーなど身近なお店で購入できる  
 セブンイレブンにはフェアトレードカカオ使用のチョコレート  
 トップバリュにはフェアトレードのコーヒー豆  
 KALDIにも多くのフェアトレード商品

世界の国と比べて日本のフェアトレード普及率が低い理由について考察した。

## 考察(Discussion)

結果から分かるように、Q1.フェアトレードについて知っている人は多いが、Q2.フェアトレード商品を買ったことがある人はかなり少ない。このことから、言葉自体聞いたことはあるがフェアトレードに関心がないという人は多いようだ。これらの一因として、義務教育で受けるフェアトレードに関する情報の格差が挙げられる。Q5から読み取れる、フェアトレード商品のイメージの違いや、世界で見たフェアトレード活動の日本の現状を表すグラフから、活動が盛んな国に比べ教材で扱うフェアトレードの内容が浅いことが分かる。それによりフェアトレード活動に対する関心や正しい知識が足りていないと考察した。

## 行ったこととこれから

私達は、まずはフェアトレードという存在を知ってもらうために、アンケートまた、簡易的なポスターを制作し、配布、また教室に掲示した。これからは、更に学校内での普及のため、昼休みの時間を使っての校内放送、熊本学園大学フェアトレード研究会の指導の下、学校内でのフェアトレード商品の校内販売を計画している。校内販売をする事で、生徒達また、教師の皆様にもフェアトレードに対してのイメージ改善や、より理解が深まる事を期待している。

## 謝辞(Acknowledgments)

探究を行う上でお力添え頂いた熊本学園大学Fair Trade Cafeのみなさん、国際交流会館のみなさん、アドバイスを頂いた熊本学園大学附属高等学校の先生方、アンケートに回答して頂いた生徒には感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

## 参考文献(Reference)

https://macrobiotic-daisuki.jp/fair-tradenihon-118361.html